

編集後記

本号は論文五篇、翻訳一篇を収めることができた。それぞれの論稿には寄稿者の地道な日々の研鑽のあとがうかがわれる。通常の号よりもいさか大部になったが、会員の意欲的な投稿が相次いだためであり、そうした会員の熱意に応えるために、時にはこうした号があってもよいのではないかと思っている。

編集を終えて思う。同志社大学国文学会はより個人的な研究発表の場であってほしい。土橋寛先生の言葉が思いおこされる。「われわれの国文学会は、必ずしも『文学』と『文学研究』について一致した見解を持つ者の集団ではないから、会員各自が自らの文学観と研究方法に従って研究を進めて行けばよく、むしろ独自の方法を示してくれることを期待したい。願わくばどのような研究であっても、『文学』の問題に何らかの拘わりを持つものであると共に、さらに文学研究の意義ないし面白さを教えてくれるようなものであれば、さらにありがたいことである。」会員諸氏のよりいっそうの積極的な投稿を期待する。

(山田)

同志社国文学 第三十二号

一九八九年三月十五日 印刷

一九八九年三月二十日 発行

編集 山田和人

発行 同志社大学国文学会

(代表) 玉井敬之

京都市上京区今出川通烏丸東入

振替 京都九一一七三七

印刷所 共同印刷工業株式会社

京都市右京区西院久田町